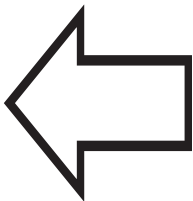


一般質問

順序	質問者氏名	質問事項
3月3日 (月)	樋口安癸次	1 過疎化する地域の道路改良について
		2 県南広域公園に続く道路について
		3 エレベーター付市営住宅について
		4 白木・和水町間のトンネルについて
	服部 良一	1 木屋診療所について地元説明会では閉所後クリニックくろぎの医療充実を図るとのことであった
		2 商店街活性化について
		3 市道の管理について
	小川 栄一	1 職員の人員配置について
		2 来年度の支所の位置付けについて
		3 民間との協働について
	森 茂生	1 山下地区の改修について
		2 生活保護について
3 特別支援教育について		
3月4日 (火)	松崎 辰義	1 環境問題について
		2 介護保険制度について
		3 堺屋の活用について
		4 文化財保護について
	栗原 吉平	1 市民の健康について
		2 八女市ふるさと支援寄附基金(ふるさと納税)
	角田 恵一	1 八女茶の消費拡大について
	牛島 孝之	1 農林業の活性化のため八女市ができること、また他の団体との連携について
2 八女市民が利用する施設等の休日について		
3 旧八女市の市営団地の建築年月日、現在の入居数		
3月5日 (水)	橋爪 房義	1 ソフトバンクホークス2・3軍新本拠地の筑後市決定に伴う本市波及活性化対策について
		2 高齢化社会の中の市営住宅行政について
	三角 真弓	1 地域包括ケアシステムの具体化を
		2 乗合タクシー(デマンドバス)について
		3 障がい者対策について
	大坪久美子	1 医療費削減のための施策について

《一般質問の詳しい内容》



鞍懸町内を4メートル道路に拡張すべきではないか



樋口 安葵次

答 地元行政区と協議し、実態把握をしていく



白木・和水町間のトンネル

問 県道柳瀬筑後線のバイパスについて検討すべきではないか。

答 福岡県へ強くお願いをし、事業促進に努めている。

問 エレベーター付市営住宅の実現について。

答 今後は、そのような方向づけとして考えていきたい。

問 白木・和水町間のトンネルについてどうなっているのか。

答 期成会の事業として毎年、熊本県庁、福岡県庁、国に要望活動を行っている。



服部 良一

問 医療充実はどの様に図られるのか。

答 超音波骨密度測定、胃カメラ、エコー、卓上型全自動高圧蒸気滅菌器などの装置の充実、及び運営の改善強化を図る。

問 クリニックくろぎの2階を利用し充実を図ることができないか。

答 今のところ打開策が見出せないが、地域サービスタウンという観点から、有効活用を進めていく。

問 町並み回遊率を上げる策を講じる考えは。

答 案内標識、町並み案内人の誘導、一情報活用によるPR、回遊道路の整備、空き店舗対策等をパッケージで考えている。

問 小売店利用促進の協議を、商工会議所の会員を中心に進めている。

答 今後導入するかは、商工会議所と協議し積極的に進める。

問 プレミアム商品券は加盟店に平等に活用されているか、また改良の余地はないのか。



プレミアム付商品券

答 医療設備の充実強化と、運営の改善を図る

木屋診療所閉所後、クリニックくろぎの医療充実を図るとは

問 商店街活性化について

空き店舗バンク条例を設定し、新しい商店を誘致しては。

今後導入するかは、商工会議所と協議し積極的に進める。

プレミアム商品券は加盟店に平等に活用されているか、また改良の余地はないのか。

小売店利用促進の協議を、商工会議所の会員を中心に進めている。

町並み回遊率を上げる策を講じる考えは。

案内標識、町並み案内人の誘導、一情報活用によるPR、回遊道路の整備、空き店舗対策等をパッケージで考えている。

今のところ打開策が見出せないが、地域サービスタウンという観点から、有効活用を進めていく。

超音波骨密度測定、胃カメラ、エコー、卓上型全自動高圧蒸気滅菌器などの装置の充実、及び運営の改善強化を図る。



小川 栄一



八女市役所黒木総合支所

26年度各支所の位置付けは どうなるのか 統廃合の計画はあるのか

答

本年度以降、機構改革で検証する
本年の統廃合はない

問 窓口としての支所では

はなく、各地区（矢部・黒木・星野・上陽・立花）の問題を各支所で解決する方向の位置づけは考えられないのか。

答 集権にならないか。

そつという感覚ではない。地域の個性・歴史・文化を把握しながら、地元を把握しながら、地元の議員・行政区長とも協議しよう。

問 東部固有の問題に予算と権限を支所に与えて

解決する方向はないか。組織は

考えていない。組織は

一体的な指示系統がないと混乱する。予算を分散し支所に割り振ってやる方法は考えていない。

問 臨時、嘱託を雇用する

のは予算を考慮してのことか。

答 もちろん人件費の抑制。27年度までに職員を

580人にする目標を掲げている。ただ市民のニーズも複雑多岐で対応のために非正規労働者を雇用しないといけない。28年度以降国の指導もあると思うので、人手不足だけではなく、組織の在り方も十分検討しなければならぬと思う

山下地区の河川改修の方向性が 決まったと聞か

答

国、県、地元など十分な意見調整を行い進める



森 茂生



生活保護について

問 生活保護を受ける

場合、車所有は通常認められない。車があれば、仕事に行けるがという話をよく聞く。裁判でも、もっと柔軟に車所有を認めるべきという判決が出たが。

答 判決では、裁判官がそう述べている。しかし、これは裁判官の意見と考

えている。
特別支援教育について

問 文科省の調査によれば、特別支援学級に在籍する児童生徒が2・7%。通常の学級に自閉症など特別な支援を必要

とする児童生徒が6・5%、合わせれば9・2%になる。これを八女市の学校に当てはめると440人が支援を必要とする。自閉症等の原因にテレビ等の影響があるとして、アメリカ小児学会が2歳まではテレビ視聴を控えるよう勧告を出した。日本でも小児学会、小児学会が同じような提言を出しているが。

答 心、脳の発達にとって非常に影響がある。母子検診の場において指導している。

堺屋は横町町家交流館に比べ、利用者が少ない。今後の打開策は



松崎 辰義



堺屋（旧木下家住宅）

答 魅力が必要と思っているが、今後十分検討したい

環境問題について

問 「うすま・ふあーむぱーく」については、臭気測定を何回され、基準値をオーバーしたのが何回か、勧告は何回出されたのか。

答 測定が延べ13回、そのうち基準値12をオーバーしたのが9回、勧告については昨年の11月を含め7回である。

問 今後はどのような勧告を考えているのか。

答 サニックスの原材料の問題を勧告の中に盛り込むのか、脱臭装置の増設とか新設など、県と協議しながら決めていく。

介護保険制度について

問 要支援が介護給付か

ら外れるが、サービスは何らかの形であるから、それには費用が伴う。

しかし、その単価は介護保険報酬以下の単価を設定することを求め、利用価格については1割以上にするとはできても、引き下げることはできないと聞くが。

答 資料に基づくと、確かにそういうことは述べられている。

ただ、基本的には予防給付から市町村の地域支援事業に移行されることになっている。
※文化財の活用についても質疑を行った。



栗原 吉平



のぼり旗

高騰している医療費の軽減策は特定健診受診率向上であり対策は

答

医療機関と連携をしながら未受診者の受診対策に力を入れていきたい

問 健診受診率向上は。

答 本年度暫定受診率は31・8%で3%向上。対象者に受診券やチラシを同封し、個人通知や全世帯へ住民健診ガイド本を配布し、医療機関や公民館、郵便局、商店等へのポスターの掲示やのぼり旗、FM八女等の啓発活動も行って

きた。また、特定健診の必要性を各行政区長及び地域の各種団体に対し説明会を開催した。

問 特定保健指導は。

未受診者には訪問や電話による受診の呼びかけ、さらに健診項目の追加と健診期間の延長、自己負担の引き下げ等を行い、若年層から受けられる体制を整えている。

答 対象者の84・8%であり、重症化しないよう生活習慣改善のため保健指導には力を入れている。

また、特定健診の必要性を各行政区長及び地域の各種団体に対し説明会を開催した。

未受診者には訪問や電話による受診の呼びかけ、さらに健診項目の追加と健診期間の延長、自己負担の引き下げ等を行い、若年層から受けられる体制を整えている。

問 後発医薬品の推進は。



角田 恵一

八女茶の消費拡大に向けた今後の具体的な取り組みをどう考えているのか

答

関係機関・団体と緊密に連携をとり全力で取り組む

問 現在の八女茶の生産状況から判断した時、今後、所得向上につながるための施策は。

答 茶の品種を気象条件、土壌条件により選定し、老木化した茶園の改植を強化する必要がある。また消費者に好まれる

ようなお茶を作ることが大事である。従来のリーフ茶ではない手軽なお茶が楽しめるような製品開発も含め、流通形態を構築していくかなければならない。

更に、6次産業化による加工も含めて対策を講じていくことも大事である。



八女中央大茶園

問 学校給食において飲料として取り入れられないか。

答 また、八女茶を使った献立の拡充は考えられないか。

答 米飯給食時におけるお茶の提供については課題等も多くあると思うが、今後、調査研究をしていきたい。

献立については、現在県学校給食会においてコース、ふりかけなどに八女茶を利用してもらっている。今後も食育、地産地消の観点から、お茶に限らず八女の農産物を取り扱ってもらうように働きかけをしたい。

旧八女市の市営住宅の建築年月日及び現在の入居数は

答

一番古いもので平塚団地が昭和29年となっている



牛島 孝之

問 今からでも土地の払い下げはできないか。

答 現時点では払い下げ等の計画はない。

問 農林業の活性化のために八女市が出来ること

答 農業用バイオマスボイラーの検証結果は。

答 燃料費の削減効果には大きな効果が認められる。

問 農業の6次産業化について八女市の考えは。

答 総合化計画を策定し又事業の活用を県や農政局と連携をとり、事業の導入に向けたプロセスを一

緒に進めていきたい。

問 側面からの支援又は補助するようなことは行われているのか。

答 普及センター等と連携をとりながら、具体的に総合化事業計画との策定が必要であり、プランナー等の御支援をいただきながら計画の策定を進めていきたい。

問 八女市民が利用する施設等の休日について

答 休日の決定権は誰にあるのか。

答 市の施設の休館日の決定権及び変更権は市長にある。



現在の市営納楚団地

筑後市にホークスファームの新本拠地が決定した。八女市の活性化対策は



橋爪房義



昭和29年建築の市営住宅

答 定住化の促進を重点に道路宅地整備等官民で誘導したい

問 本市は、隣接市として、若年層の転入、定住促進、八女産品の販路拡大、観光回遊人口の増加等が期待される。宅地の開発、空き家バンク事業の改善、アクセス道路の拠点整備、新観光ルートの導入等本市の行方は。

答 定住化促進は、市の最重要課題であり、優良宅地の造成施策を進める。市の直営の他、民間による開発も誘導したい。空き家バンク事業は、新年度から全市対象に向け準備中である。計画周辺へのアクセス道路としては、船小屋八女線等4県道が考

えられる。未整備区間もあり、今後、市の活性化のためにも、地元と調整を図りながら、国県への積極的な要望と合せ市道も計画的整備に努める。観光対策は、筑後7国商工観光推進協議会で広域的に検討する。八女産品の販路拡大については、八女商工会議所、八女市商工会、筑後市等と連携し販路拡大につなげたい。

高齢化の中の市営住宅は

問 木造住宅の増築及び一人世帯入居制限撤廃を計画して進める。制限の撤廃は申込状況で検討。

答 建て替えや改善を計画的に進める。制限の撤廃は申込状況で検討。



三角真弓



八女市予約型乗合タクシー

地域包括ケアシステムの具

問 誰もが住み慣れた地域や家庭で、安心した暮らしを続けていける地域包括ケアシステムをどのように作り上げるのか。

答 地域のつながりや特性を考慮しながら、地域

性を考慮しながら、地域

福祉ネットワークの構築を図り、八女市高齢者福祉計画第6期介護保険事業計画に反映させていく。

問 市民との協働による生活支援ボランティアなどの養成はどう考えるのか。

答 個々のニーズに対応し

答

公共交通を将来にわたり維持確保し、効率的運行に努める

乗合タクシーは4年を経過したが、高齢社会のニーズへの対応は

ていくためにも十分に検討していく。

障がい者対策について

問 在宅の重症心身障がい児・者を一時的に受け入れる短期入所サービスの拡充が図られ、親の負担軽減への取り組みが決定したが本市の方向性は。

答 県において介護老人保健施設を活用した医療型短期入所事業所の設置が計画されているので、介護者の負担軽減となる。

問 まごころ企業認定制度の利用はやっていくか。

答 本市の障がい者就労施設などからの物品調達



大坪 久美子

2008年の罹患数(全国推計値)が多い部位順

	男性	女性	男女計
1位	胃	乳房	胃
2位	肺	大腸	大腸
3位	大腸	胃	肺
4位	前立腺	肺	乳房
5位	肝臓	子宮	前立腺

出典 国立がん研究センターがん対策情報センター

2011年の死亡数が多い部位順

	男性	女性	男女計
1位	肺	大腸	肺
2位	胃	肺	胃
3位	大腸	胃	大腸
4位	肝臓	膵臓	肝臓
5位	膵臓	乳房	膵臓

出典 国立がん研究センターがん対策情報センター

胃がん検診に「ピロリ菌検査」を組み入れ胃がんを撲滅しよう

答

現行の胃エックス線検査の受診を進めていきたい

問 第二次世界大戦の敗戦から復興した日本は上下水道を初めとするインフラを整備した。社会インフラが整備される前の時代、殺菌されていない井戸水などを飲料水として使用し、不衛生な環境により多くの日本人がピロリ菌に感染したと思わ

れる。高齢者のピロリ菌感染率は、実に8割に及ぶという推計もある。

今では慢性胃炎にまで除菌が保険適用となっており。もちろんピロリ菌がいるからといって全てががんになるわけではないが、がんになった方は全てピロリ菌をもってい

たのが現状である。日本人の胃がん罹患者数は、男性では第一位、女性では第三位である。当市でもピロリ菌検査を項目に入れ、苦しむ本人そして悲しむ家族を一人でも減らすため予防のための検診を増やしてほしい。

答 多くの疫学研究や動物実験などにより、胃粘膜に住み着く細菌としてピロリの持続感染は胃がんのリスク要因とされているが、公的機関が行う集団検診としては推奨されていない。

議会の動き

2月

1日 子ども議会
5日 全員協議会
厚生常任委員会

建設経済常任委員会

19日 八女中部衛生施設事務組合議会

20日 八女西部広域事務組合議会

行政区域長校区代表者との意見交換会

21日 全国市議会議長会国会対策委員会(21日)

議会運営委員会

25日 八女地区消防組合議会

26日 平成26年第1回定例会(招集日)

全員協議会

27日 福岡県南広域水道企業団議会

7日 予算審査特別委員会全体会

議会だより編集委員会

17日 予算審査特別委員会全体会

下水道調査特別委員会

20日 平成26年第1回定例会(最終日)

28日 公立八女総合病院企業団議会

全員協議会

2日 議会だより編集委員会

議会だより編集委員会

10日 福岡県南市議会議長会(八女市)

11日 福岡県南市議会議長会(宗像市)

18日 福岡県南市議会議長会(宗像市)

24日 九州市議会議長会定期総会(25日、那覇市)

4月

3月